

優秀賞

壁のおかげ

大阪府 森本 浩美

「消毒はしましたか。」

「前の人との間をもう少し空けて。」

「おしゃべりしないでお食事しましょう。」

教師生活も随分になるが、子どもたちにこんな言葉をかけることなど、もちろんなかった。異例の毎日。入学式は一か月遅れ、座席は二メートル以上間隔を空けて、始業式も全校朝礼も放送で。何ということだ。子どもたちの安全を確保するためとは言え、これでは子ども達の心の成長が心配だ。

そんな中、五月からずっと延期になっていた体育大会の実施が決定した。何度も検討した後の決断である。正直なところ、嬉しさよりも不安の方が大きかった。感染症対策は？練習時間の確保は？熱中症対策は？一瞬で私たちの周りに、幾つもの壁が立ち上がった。

いざ練習が始まると、更に表れる壁との闘いの日々。気温が上昇すれば、外での練習は十分のみ。予行練習も急遽大きく形を変えての実施。観客席を座席指定にし、そのための抽選や前日の会場消毒など、一つ一つ皆で声をかけ合いながら、壁に立ち向かっていった。

迎えた体育大会当日。最高の姿を家族に見せようと、全力で走り、踊り、行進する子どもたち。これまでの壁を吹き飛ばすかのようなパワーに、私は圧倒された。更に、今年の観客席と応援席は少し違う。いつもなら聞こえる声援はなく、聞こえるのは拍手の音。子どもたちは、共にたくさん壁を乗り越えて頑張ってきた他学年の仲間たちに、心からのエールを拍手として送っていた。

終えてみれば、私は何を不安に思っていたのだろうか、不思議にさえ思う。短期間だろうと、制限がたくさんあろうと、どんな壁が現れようと、子どもたちは与えられた状況の中で、実にたくましく実に楽し気に全力を尽くした。その姿に、観客は心を打たれ、希望や勇気を与えられた。やっぱり、『子どもってすごい』。たくさん壁のおかげで、改めてそう感じさせてもらった一日だった。